



**Vanguard ROCC**  
Rotating Platform Knee System

手術手技

**BIOMET**

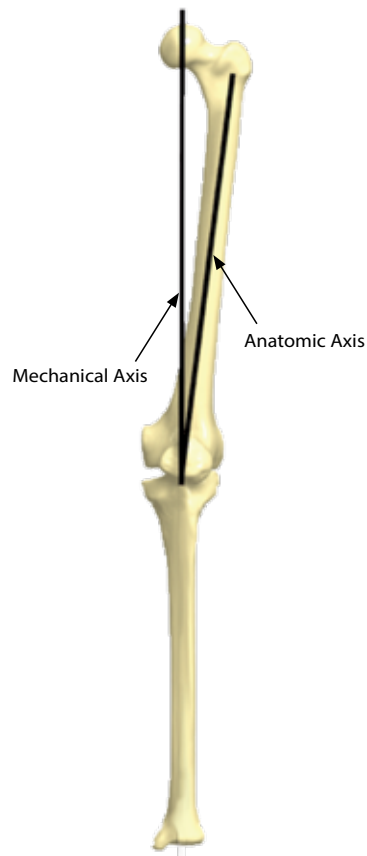
# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System

---

## 目的

術前計画	2
脛骨骨切除・髄外法(オプション1)	3
脛骨骨切除・髄外法(オプション2)	6
脛骨骨切除・髄内法(オプション3)	9
屈曲・伸展ギャップ	11
大腿骨骨切除(オプション1)	12
大腿骨骨切除(オプション2)	15
大腿骨サイジング	18
4-in-1大腿骨骨切除	21
トロクリアグループ作製	23
脛骨サイジング	26
キール・ステムトライアル	27
膝蓋骨骨切り	29
試験整復	30
インプラント挿入	30
サイズ互換表	32

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System



## 序文

Vanguard ROCC (Rotative Concave Convex) は Vanguard Complete Knee System に属します。 Vanguard ROCC 専用器械は既存の Premier、Microplasty と組み合わせて使用し、その手術手技に基づいています。

本手技に記載している多くの手術手技は Vanguard Premier 器械セットの手技に関連しています。

## 術前計画

Vanguard ROCC は主に大腿骨髄内アライメントを基準として使用します。 髄外ロッドは術中に大腿骨アライメントの確認に使用します。

テンプレートの使用で大腿骨解剖軸と下肢機能軸を測定し、その結果から大腿骨の外反角を決定することができます。

大腿骨遠位骨切除と脛骨骨切除は機能軸に対して垂直に行います。

脛骨ガイドは以下3種類が選択可能です：

- 髄内法：ロッドの挿入位置はACL付着部
- 髄外法
- 髄内法と髄外法の組み合わせ

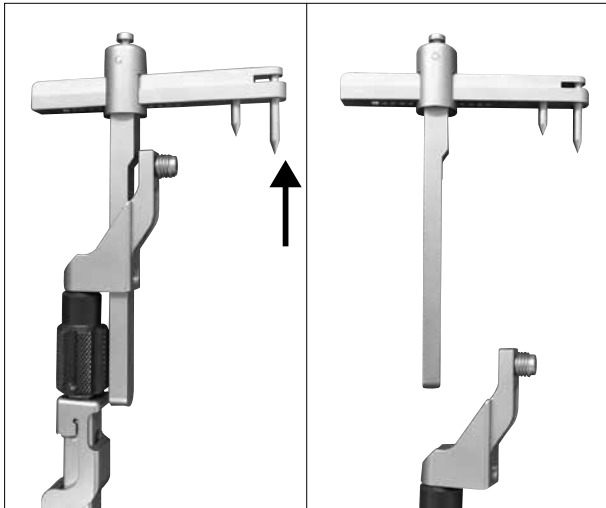


Figure 1



Figure 2

## 術前計画

テンプレートを使用して軸の決定とインプラントサイズの予測を行います。

**推奨ソーブレード厚：1.37mm**

**注記：**後十字靭帯は切離します。

## 脛骨骨切除・髓外法 (オプション1)

### Vanguard Instruments

VG VT ティビアルガイドのスパイク部を本体から抜き (Figure 1)、任意の脛骨骨切りブロックをVGヘックドライバー3.5mmにて固定します (Figure 2)。

**注記：**ベアリングに7°の後方傾斜が組み込まれているので、脛骨骨切除は0°の後方傾斜で行います。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System



Figure 3

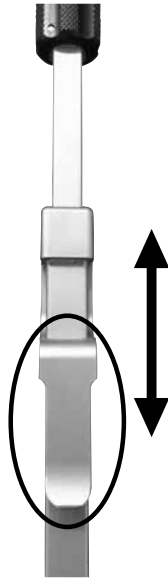


Figure 4



Figure 5

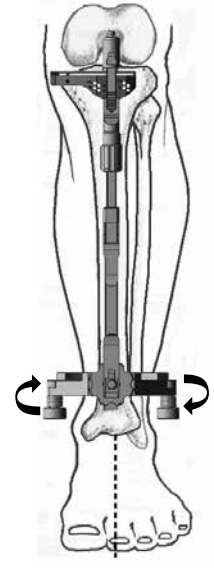


Figure 6

## 脛骨骨切除・髓外法 (オプション1)

### Vanguard Instruments

黒色のスリーブ部分は最終の骨切り量の微調整に使用しますが、ネジ切り部分が約10mm見えるように設定してください。時計回り方向に回すと骨切りブロックは下方に動き骨切り量は増加、反時計回り方向に回すと骨切りブロックは上方に動き骨切り量は減少します(可動範囲は14mmです)(Figure 3)。スパイク部分を本体に挿入します。

膝関節最大屈曲位で足関節果部の真上にアンクルクランプを設置します。

ガイド本体の中央にあるノブをつまみ、VG VT ティビアルガイドの長さを調節します(Figure 4)。

2本のスパイクのうち、長い方のスパイクのみを打ち込み、回旋方向の動きのみフリーな状態にします(Figure 5)。

次に内外反の傾斜調節を、アンクルクランプを内外反方向に動かして調整します。位置決定後アンクルクランプのノブ部分を時計回り方向に回し固定します(Figure 6)。

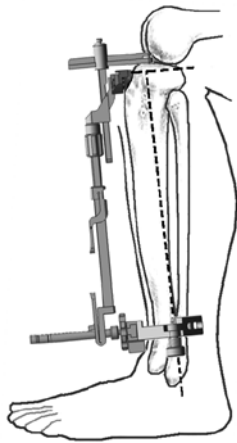


Figure 7

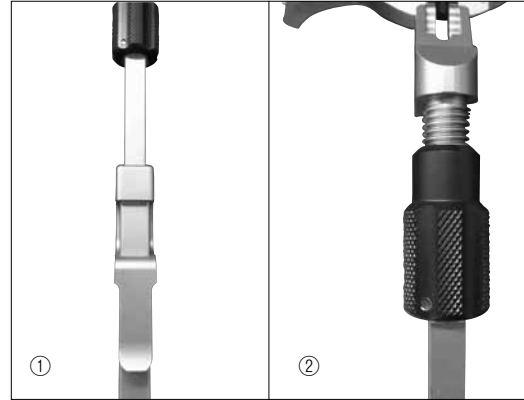


Figure 9



Figure 8

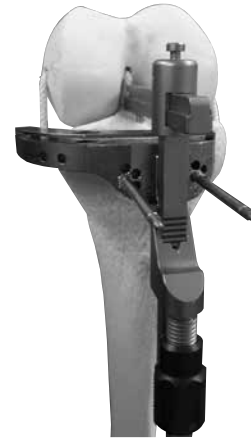


Figure 10

## 脛骨骨切除・髓外法 (オプション1)

### Vanguard Instruments

ガイド遠位のノブをつまみガイドを前後に動かすことにより、患者の解剖学的形態に沿って後方傾斜を設定、VGフィラー ブレードを脛骨骨切りブロックのカッティングスロットに挿入し、脛骨近位に沿わせ確認します (Figure 7)。

後方傾斜、内外反確認後、短い方のスパイクも打ち込み、完全にガイドを固定します (Figure 8)。

スタイラスを用いて適切な骨切除量を確認します。中央のノブで最初にある程度の高さを調整し①、次に、スリーブ部分を回すことにより最終調整をします② (Figure 9)。

脛骨骨切りブロックの最も遠位の穴にクイックリリース ドリル3.2mmを挿入し固定します (Figure 10)。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System

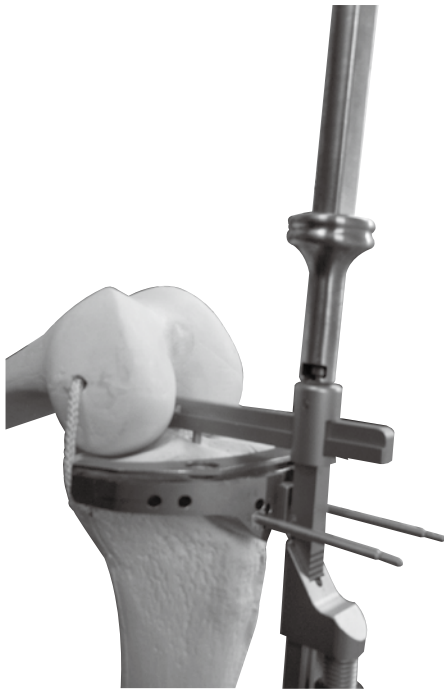


Figure 11

## 脛骨骨切除・髓外法 (オプション1)

### Vanguard Instruments

スパイク部上部にある抜去用ペグにスラップハンマーを取り付け、スパイク部のみを抜去します (Figure 11)。

1.37mmソーブレードを使用して骨切除を行います。



Figure 12

## 脛骨骨切除・髓外法 (オプション2)

### Vanguard Instruments

膝関節最大屈曲位で足関節果部直上にアンクルクランプを設置します (Figure 12)。

プレミアムEMティビアルボディ中央のボタンを押して、脛骨骨切りブロックの高さを調整します (Figure 13)。その次に脛骨骨切りブロックを脛骨近位にあてがいます。

**注記：**ベアリングに7°の後方傾斜が組み込まれているので、脛骨骨切除は0°の後方傾斜で行います。





Figure 13



Figure 14

## 脛骨骨切除・髓外法 (オプション2)

### Vanguard Instruments

ガイドの軸が脛骨軸に平行（後方傾斜0°）になるように、ガイド遠位のボタンを押して骨切りガイドを前後に調整します（Figure 12）。

プレミア EM ティピアルボディ遠位のボタンを押してML方向に動かし、骨切りブロックの内外反の傾斜角を調整します。正面像の骨切り角を正しく調整してから、回旋方向の調整を行います。スタイラス上部の金色のボタンを押し、スタイラスのロック機構を解除し脛骨骨切りガイドに装着、スタイラスの角を用いて下記の適切な高さに調整し、骨切りブロックの最も遠位の穴にクイックリリースロックカーピン3.2mmを挿入し固定します（Figure 14）。

- 脛骨プラトーの最も欠損が少ない箇所から10mm
- 脛骨プラトーの最も欠損の多い箇所から2-4mm

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System

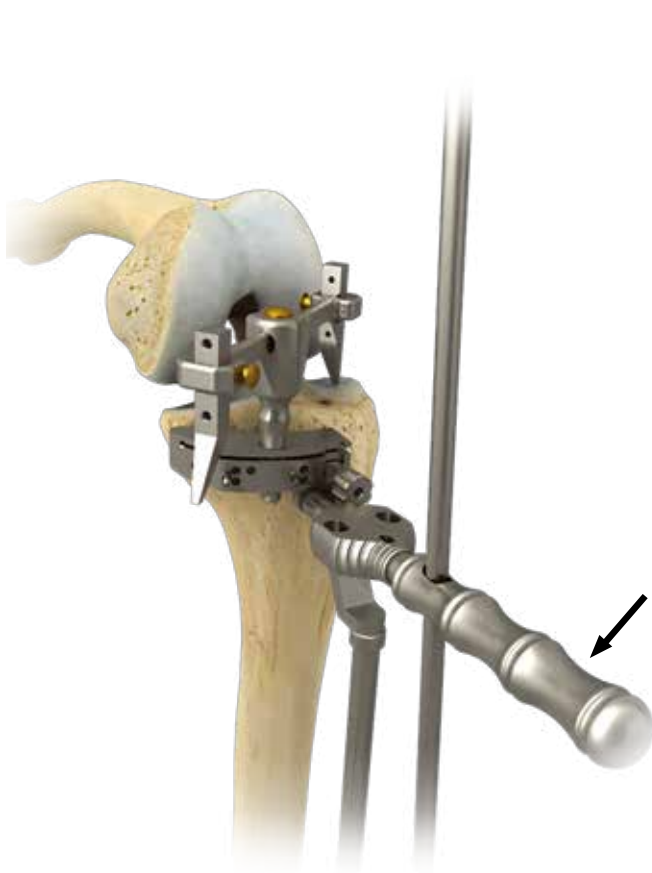


Figure 15

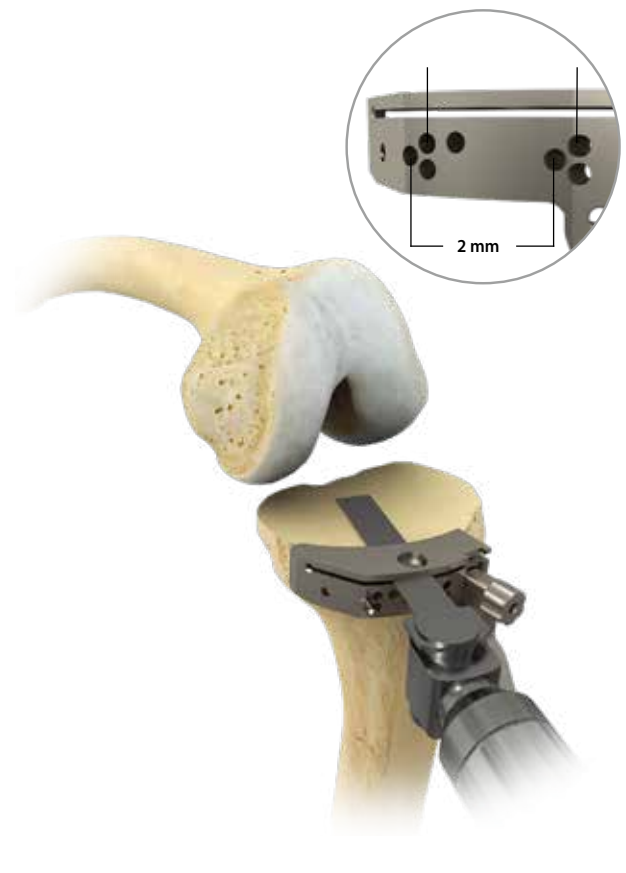


Figure 16

## 脛骨骨切除・髓外法 (オプション2)

### Vanguard Instruments

VG アライメントタワー ハンドルを骨切りブロックに装着しアライメントロッドを通すことにより、アライメントの確認が行えます (Figure 15)。

骨切りブロックからスタイラスを外します。

プレミアム EM ティピアルボディは取り除くか、もしくはより安定性を得るために装着した状態でも使用可能です。

1.37mmソー ブレードを使用して骨切除を行います (Figure 16)。

**注記：**追加骨切除が必要な場合、脛骨骨切りブロックには+2mm、+4mm追加骨切り用の穴があります。クイックリリースストロッカーピンを残したまま、脛骨骨切りブロックをスライドし抜去、必要な+2mm、もしくは+4mmの穴に再挿入します。



Figure 17



Figure 18

## 脛骨骨切除・髓内法 (オプション3)

### Vanguard Instruments

膝関節最大屈曲位でIMドリルを髓腔に穿孔します。ドリル孔の位置は前十字靭帯の付着部やや後方とします (Figure 17)。

IMティビアガイドに脛骨骨切りブロックを装着し、IMロッドを髓腔に挿入します。ロッドの溝は髓腔の減圧を助けます。ガイド本体の上部左側にある銀色のボタンを押して、脛骨骨切りブロックが脛骨皮質骨前面に沿うように設置します (Figure 18)。

スタイラスを最も欠損が少ない脛骨プラトー(内反変形膝の場合は通常外側)に設置します (Figure 18)。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System



Figure 19

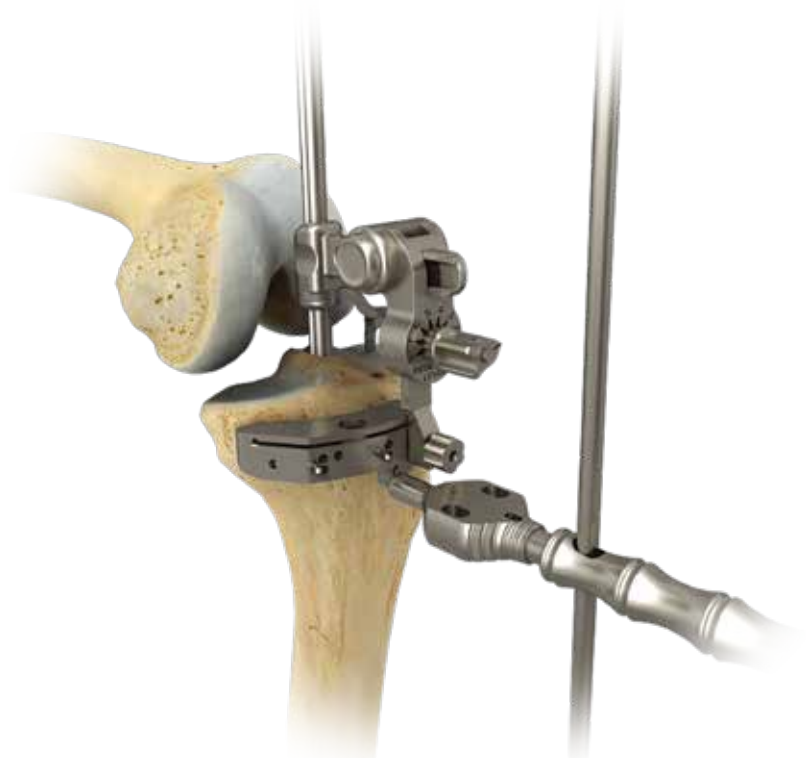


Figure 20

## 脛骨骨切除・髓内法 (オプション3)

### Vanguard Instruments

スタイラスは骨切除量を示します。骨切除量は前面のダイヤルの設定により決定されます。骨切除量はダイヤルを押しながら適切な骨切除レベルまで回転させることにより調整できます。ダイヤルは1mm間隔で調整可能です (Figure 19)。

**注記：**ベアリングに7°の後方傾斜が組み込まれているので、脛骨骨切除は0°の後方傾斜で行います。

VG アライメントタワー ハンドルを骨切りブロックに装着しアライメントロッドを通すことにより、アライメントの確認が行えます (Figure 20)。

適切な位置であることを確認してから、骨切りブロックの最も遠位の穴にクイックリリースロックカービン 3.2mmを挿入し固定します。

Tハンドルを抜去します。

より安定性を得るために3本目の固定ピンを挿入することができます。

1.37mm ソー ブレードを使用して骨切除を行います。



Figure 21



Figure 22

## 屈曲・伸展ギャップ

### Vanguard ROCC Instruments

脛骨骨切除が行われたら、適切なVG ROCC スパースーを用いて、屈曲・伸展ギャップの確認を行います。2mm間隔で10–20mm、大腿骨コンポーネントサイズに適合する3サイズがあります (Figure 21)。

- 55 / 57.5 / 60
- 62.5 / 65 / 67.5
- 70 / 72.5 / 75

屈曲・伸展ともにスパースーの挿入が困難な場合、脛骨骨切除を再度行います。

VG ROCC スパースーにVG アライメントタワーハンドルを装着し中央の穴にアライメントロッドを挿入することにより、アライメント、内外旋の確認が行えます (Figure 22)。

**注記：**VG ROCC オブロング コンバーターをVG アライメントタワー ハンドルに装着することにより、IMロッドの位置を調整することができます。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System



Figure 23

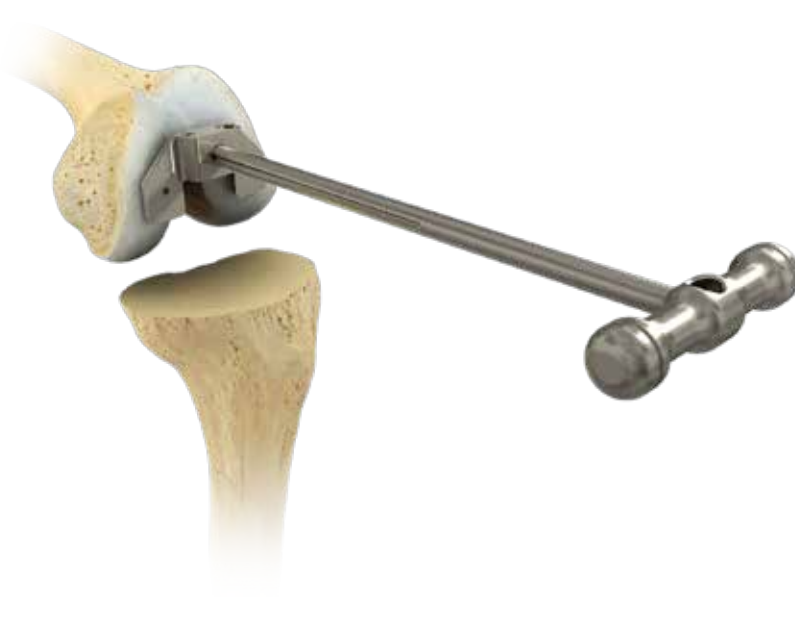


Figure 24

## 大腿骨骨切除 (オプション1)

### Vanguard Instruments

IMドリルを使用して、大腿骨髄腔を穿孔します。ドリル孔の位置は後十字靭帯附着部約1センチ前方で、大腿骨顆間窩中心線のやや内側寄りになります。IMドリルの径が太いスラップ部分で大腿骨開口部の直径を広げると、髄腔にかかる圧力を軽減することができます (Figure 23)。

T型IMロッドをプレミア外反ウィングに通します。

**注記：**プレミア外反ウィング (5度から7度) には外反角度が事前設定されています。

T型IMロッドを髄腔内に挿入します。プレミア外反ウィングを大腿骨遠位端にあたるまで挿入します (通常は内顆が関節面に接します)。プレミア外反ウィングに刻印されたLT (左) またはRT (右) の文字が、大腿骨から見て遠位方向に向いている (術者から文字が見える) ことを確認してください。ブロックの下方から出ている後方顆部の量が等しくなるよう、プレミア外反ウィング下縁の向きを調節します (Figure 24)。

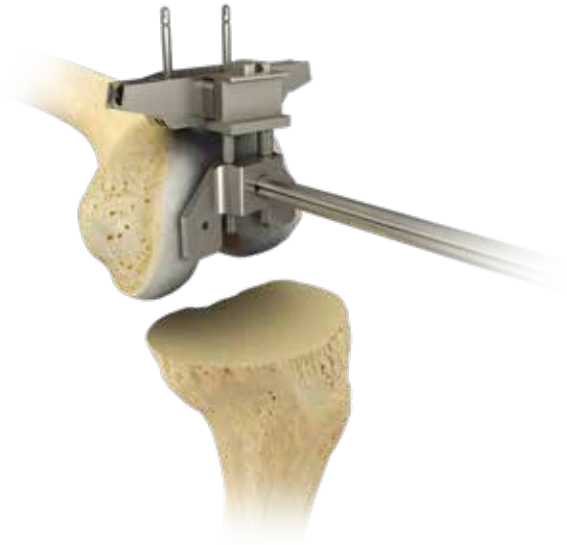


Figure 25

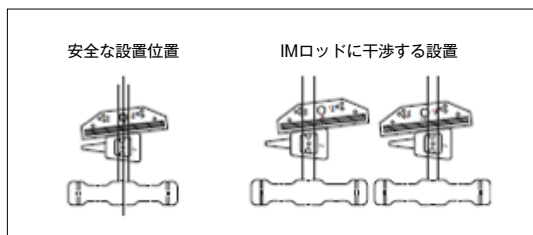


Figure 26

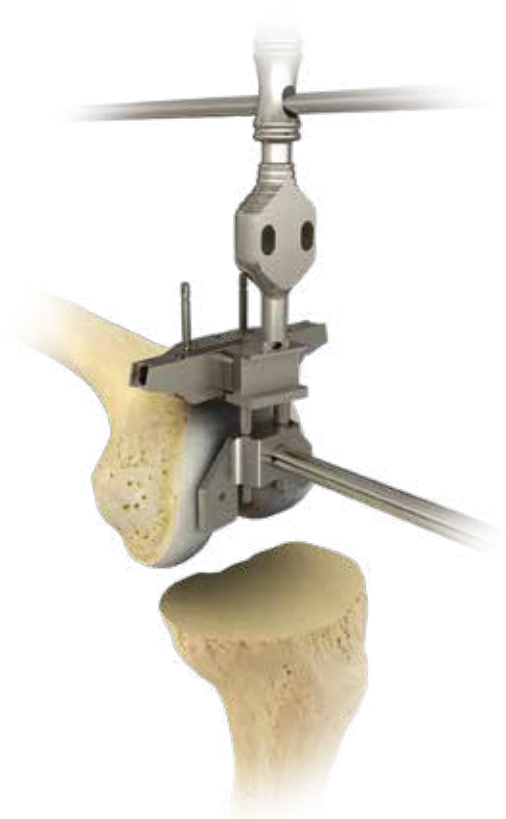


Figure 27

## 大腿骨骨切除 (オプション1)

### Vanguard Instruments

プレミア ディスタル カット ブロックと外反ウィングと同じ角度のMPアタッチメントを、プレミア 外反ウィング前方の穴に差し込み、カット ブロックが大腿骨前方に接するように設置します。クイック リリース ドリル 3.2mmを使って、プレミア ディスタル カット ブロックの中央の穴に固定します (Figure 25)。

**注記：**プレミア ディスタル カット ブロックをMPアタッチメントの中心になるように設置してください。中心に設置できなかった場合、クイック リリース ドリルがIMロッドに干渉し、損傷の原因になります (Figure 26)。

外反角度を確認するためには、アライメント タワー ハンドルをプレミア ディスタル カット ブロックの近位側の溝に設置してから、アライメント ロッドを挿入し大腿骨骨頭に向けて延ばします (Figure 27)。

**注記：**MPアタッチメントにはアライメント タワー ハンドル装着用の溝が左右両側にあります。必ずMPアタッチメント近位側にアライメント タワー ハンドルを装着してください。

プレミア ディスタル カット ブロックを残し、IMロッド、プレミア外反ウィング、MPアタッチメントを取り外します。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System



Figure 28

## 大腿骨骨切除 (オプション1)

### Vanguard Instruments

大腿骨遠位端骨切り用に、“0”または“+3”の骨切りスロットがあります。0mmのスリットを選んだ場合、大腿骨顆部の最も突起した箇所から9mm（大腿骨コンポーネント遠位端の厚みと同量）骨切除されます。追加 3mm以上の遠位端骨切りが必要な場合、プレミア ディスタル カット ブロック自体を“+2”、または“+4”の穴に差し替えて近位に移行してください。スリットと穴を組み合わせて使用すれば1mm単位での追加骨切りが可能です。選択したスリットから1.37mmソー ブレードを使って遠位端の骨切除をおこないます (Figure 28)。





Figure 29



Figure 30

## 大腿骨骨切除 (オプション2)

### Vanguard Instruments

IMドリルを使用して、大腿骨髄腔を穿孔します。ドリル孔の位置は後十字靭帯附着部約1センチ前方で、大腿骨顆間窩中心線のやや内側寄りになります。IMドリルの径が太いスラップ部分で大腿骨開口部の直径を広げると、髄腔にかかる圧力を軽減することができます (Figure 29)。

T型IMロッドをプレミア外反ウィングに通します。

作製したIMホールにT型IMロッドを挿入します。

プレミア ディスタル ガイド遠位のダイヤルのつまみを押しながら回し、適正な外反角度に合わせます。外反角度の設定は0°から9°まで可能です。切除量ダイヤルを回して適正な骨切除量を選択します (Figure 30)。

**注記：**スタンダード大腿骨遠位骨切除はインプラント遠位端の厚みと同じ9mmです。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System

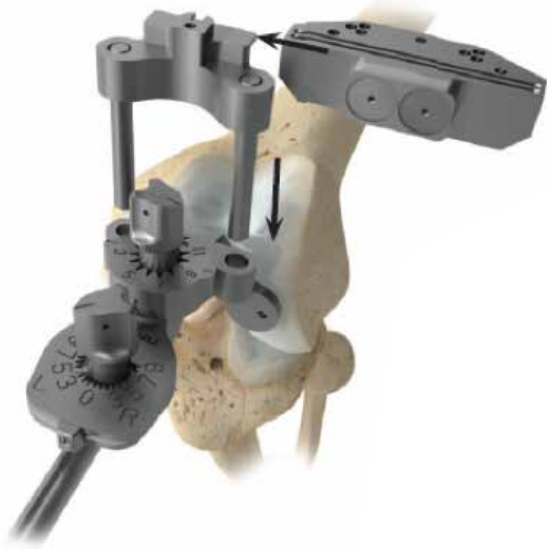


Figure 31

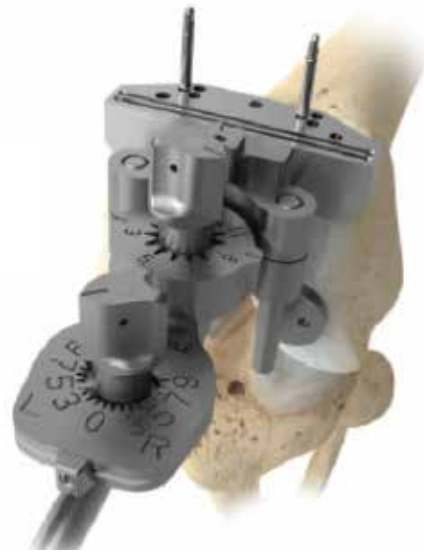


Figure 32

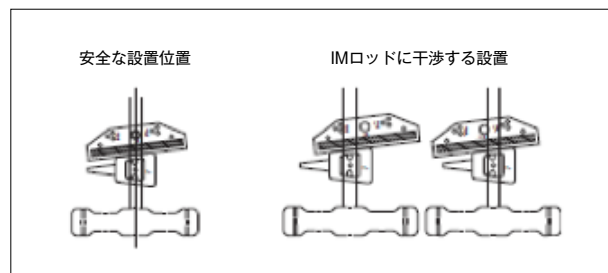


Figure 33

## 大腿骨骨切除 (オプション2)

### Vanguard Instruments

T型IMロッドをアジャスタブル ディスタル ガイド中央の穴に通します。T型IMロッドを髓腔内に挿入します。プレミア外反ウィングを大腿骨遠位端にあたるまで挿入します。アジャスタブル ディスタル アダプターに磁石構造のプレミア ディスタル カット ブロックをスライドさせ装着します。アジャスタブル ディスタル ガイドの前方の穴に、アダプターの2本脚を差し込みカットブロックが大腿骨前方皮質骨に接するよう装着します (Figure 31)。

クイック リリース ドリル 3.2mmを使って、カットブロックの中央の穴に固定します (Figure 32)。

注記：プレミア ディスタル カット ブロックをMP アタッチメントの中心になるように設置してください。中心に設置できなかった場合、クイック リリース ドリルがIMロッドに干渉し、損傷の原因になります (Figure 33)。

外反角度を確認するためには、アライメント タワー ハンドルをプレミア ディスタル カット ブロックの近位側の溝に設置してから、アライメント ロッドを挿入し大腿骨骨頭に向けて延ばします。



Figure 34

## 大腿骨骨切除 (オプション2)

### Vanguard Instruments

大腿骨遠位端骨切り用に、“0”または“+3”の骨切りスロットがあります。0mmのスリットを選んだ場合、大腿骨顆部の最も突起した箇所から9mm（大腿骨コンポーネント遠位端の厚みと同量）骨切除されます。追加 3mm以上の遠位端骨切りが必要な場合、プレミア ディスタル カット ブロック自体を“+2”、または“+4”の穴に差し替えて近位に移行してください。スリットと穴を組み合わせる使用すれば1mm単位での追加骨切りが可能です。選択したスリットから1.37mmソー ブレードを使って遠位端の骨切除をおこないます (Figure 34)。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System



Figure 35



Figure 36

## 大腿骨サイジング

### Vanguard ROCC Instruments

脛骨骨切除後に決定したサイズと同サイズのVG ROCC スパースーにVG ROCC ディスタル スパースーを装着して伸展ギャップの確認を行います (Figure 35)。

満足な伸展が得られない場合は、大腿骨遠位端の再切除を行います。

VG ROCC AP サイザーアダプターを使用して、AP サイザー (Vanguard Instruments) を屈曲・伸展ギャップ確認で決定したVG ROCC スパースーの前面に装着します (Figure 36)。

必要に応じてVG ROCC ローテーションブロックを追加します。



Figure 37



Figure 38

## 大腿骨サイジング

### Vanguard ROCC Instruments

VG AP サイザーを大腿骨遠位骨切除面に密着するように設置します (Figure 37)。この段階では設置に気を付けます。

スタイラスを前面皮質骨の最深部に置きます。

大腿骨コンポーネントサイズをVG AP サイザー中央のメモリから読み取ります (Figure 38)。

**注記：**最終インプラントのアンテリアフランジ設置の指標とするため、スタイラスを決定した大腿骨サイズと一致させます。

器械のサイズはカラーコードに対応しています。中間サイズ (57.5/62.5/67.5/72.5) も刻印されています。大腿骨サイズ80は使用できません。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System

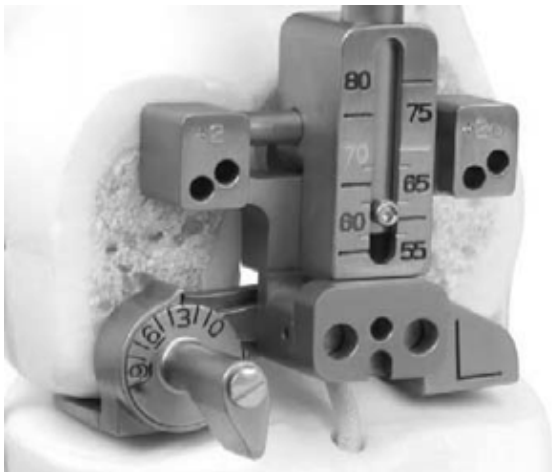


Figure 39



Figure 40

## 大腿骨サイジング

### Vanguard ROCC Instruments

中間サイズを示している場合、または屈曲ギャップを大きくする必要がある場合は小さいサイズを選択し、大腿骨設置の前方移動を選択します。大腿骨コンポーネントを前方移動させるためには、VG APサイザーの+2の穴を選択します (Figure 39)。

次に、クイックリリース トロカーピンを用いて、4-in-1 カットブロック設置用の穴を作製します (Figure 40)。



Figure 41



Figure 42

## 4-in-1 大腿骨骨切除

### Vanguard Instruments

VG AP サイザーで選択したサイズに適応する 4-in-1 カットブロックを大腿骨遠位端に作製したドリル穴に差し込みます。

4-in-1 カットブロック側面にハンドルを装着し、大腿骨遠位端の平らな面に密着しているか確認します (Figure 41)。

フィラー ブレードを用いて、適切な大腿骨前面骨切除量を確認します (Figure 42)。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System



Figure 43



Figure 44

## 4-in-1 大腿骨骨切除

### Vanguard Instruments

ノッチングの可能性が示唆された場合、APシフトブロックを用いて、4-in-1カットブロック用の穴を1ミリ間隔で前方移動させることができます (Figure 43)。この場合、後顆骨切除量が追加となります。

4-in-1カットブロックの設置が適切であれば、1.37mm ソーブレードで前後面と前後シャンファー部の骨切除を行います (Figure 44)。

より固定性が必要な場合は、ブロック側面へのピン固定を行います。



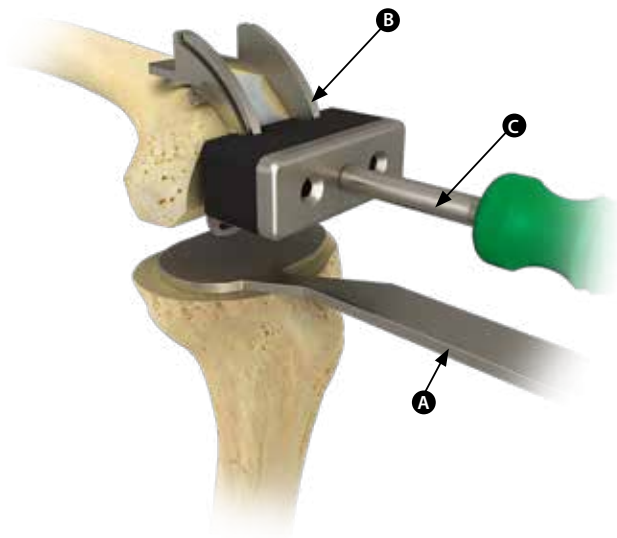


Figure 45



Figure 46

## トロクリアグループ作製

### Vanguard ROCC Instruments

VG ROCC プロテクトプレートを用いて、脛骨骨切除面を保護します (Figure 45 A)。

VG ROCC ボックスガイドのML位置を決定します (Figure 45 B)。

VG ROCC ガイドインパクトターを用いて、VG ROCC ボックスガイドを最終設置します (Figure 45 C)。

VG ROCC ボックスガイドインパクトターを用いて、VG ROCC ボックスガイドが完全に大腿骨骨切除面に設置するように、前方向に押し込みます (Figure 46)。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System

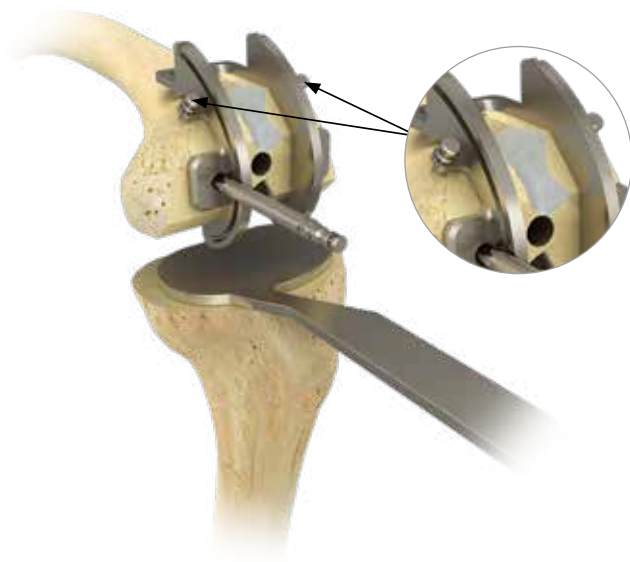


Figure 47



Figure 48

## トロクリアグループ作製

### Vanguard ROCC Instruments

VG ROCC ボックスガイド両サイドにヘッドピンを挿入します。ガイドを固定しているピンが骨切除時の動きを制御できる角度にあるか注意してください。そのため、ヘッドピンはガイド上の穴の角度通りに挿入しなければいけません。VG ROCC ストッパー付きドリルを用いて7mm径のペグ穴を作製します (Figure 47)。

VG ROCC カuttingガイドペグをVG ROCC ボックスガイドに挿入します (Figure 48)。

**注記：**VG ROCC ボックスガイドはサイズにより特定されます。



Figure 49



Figure 50

## トロクリアグループ作製

### Vanguard ROCC Instruments

VG ROCC ボックスガイドに適應するVG ROCC ボックスリーマーを選択し、VG ROCC リーマーハンドルに装着します (Figure 49)。

ハンドピースに接続します。

VG ROCC ボックスリーマーをVG ROCC ボックスガイドの溝にはめ込み、必ず滑車溝上部から顆間窩の海綿骨方向へとリーミングを行います (Figure 49)。

場合によってはラップを用いて、滑車溝を徒手的に完成させなければいけません (Figure 50)。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System



Figure 51

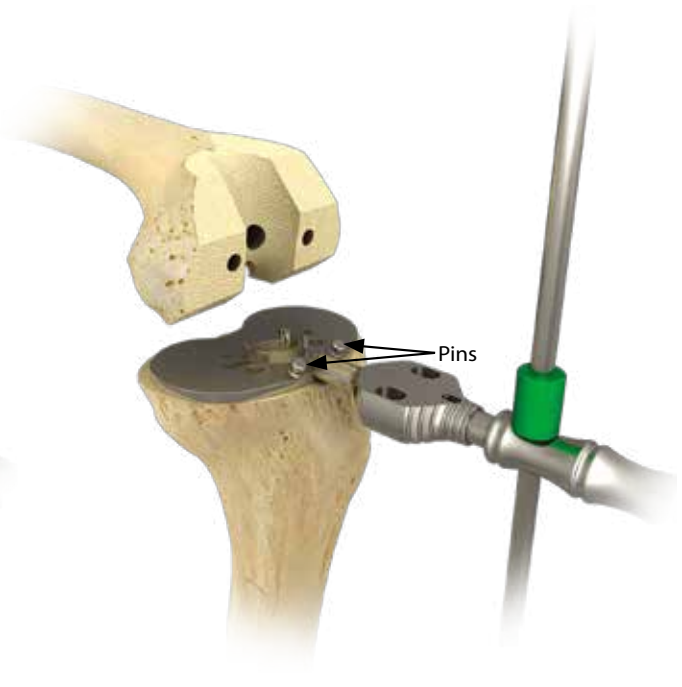


Figure 52

## 脛骨サイジング

### Vanguard ROCC Instruments

膝関節最大屈曲位にて脛骨を前方に引き出します。

M/L、A/P共に最大に被覆する適切なVG ROCC ティビアルトレイフィン型を選択します (Figure 51)。

VGアライメントタワー ハンドルの中央の穴にアライメントロッドを挿入することにより、アライメントの確認が行えます (Figure 52)。

やや外旋位設置は膝蓋大腿関節のトラッキングが適切に機能します。

適切な回旋が決定したら、VG ROCC ティビアルトレイフィン型前方の穴にVG ROCC ベースプレートピンを用いて固定します (Figure 52)。



Figure 53



Figure 54

## キール・ステムトリアル

### Vanguard ROCC Instruments

VG ROCC ティビアルトレイフィン型の後方の穴にヘッドピンを挿入します (Figure 53)。

VG ROCC ティビアルトレイフィン型にVG ROCC パンチタワーを、上部ピンを用いて固定します (Figure 54)。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System



Figure 55



Figure 56

## キール・ステムトリアル

### Vanguard ROCC Instruments

脛骨トレイサイズに適合するVG ROCC リーマーを用いて、リーミングを行います (Figure 55)。

**注記:** 髓外手技や骨が硬い場合は、VG ROCC リーマーを使用する前にVG ティビア スターターリーマーを用いて仮穴の作製が推奨されます (Figure 55)。

VG ROCC トリアルキールをVG ティビアルパンチハンドルに装着し、VG ROCC パンチタワーに到達するまで挿入します (Figure 56)。

完全に挿入した後、VG ティビアルパンチハンドル上部のボタンを押してVG ROCC トリアルキールを外し、そのままトリアルステムとして使用します。

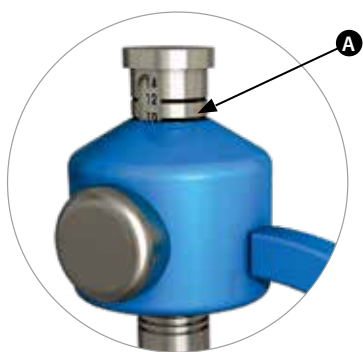


Figure 57

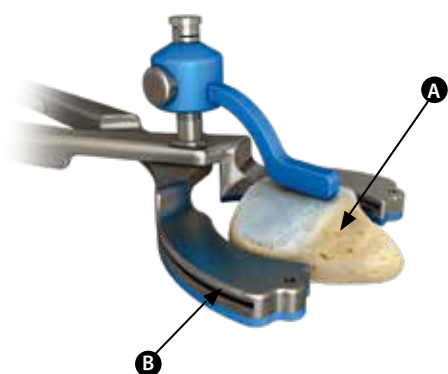


Figure 58

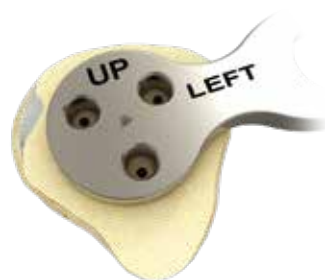


Figure 59



Figure 60



Figure 61

## 膝蓋骨骨切り

### Vanguard ROCC Instruments

VG ROCC パテラソーガイドのスタイラスを、予定する骨切除量の高さに合わせます (Figure 57)。スタイラスの目盛りは切除する骨の厚みを示しています。

パテラコンポーネントの厚さ

- サイズ 30 — 9mm
- サイズ 33 — 9.5mm
- サイズ 36 — 10.5mm
- サイズ 39 — 11mm

膝蓋骨の頂点にスタイラスをあてがいます。

VG ROCC ソーガイドを締めて、スロットを通じて骨切除します (Figure 58)。

VG ROCC パテラドリルガイドを膝蓋骨の適切な場所に置きます (Figure 59)。

VG ROCC 3ペグパテラドリルでペグ穴を作製します (Figure 60)。

パテラトリアルを挿入し、試験整復を続けます (Figure 61)。

**注記：**パテラコンポーネントのサイズ変更を行った場合でも、ペグホールの変更は行わないでください。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System



Figure 62



Figure 63

## 試験整復

VG ROCC ティビアルトレイフィン型の後方に挿入したヘッドピンを抜去します。VG ROCC ベアリングトライアルを挿入します。

最後にVG ROCCフェモラルトライアルを挿入します。試験整復を行います (Figure 62)。

**注記：** トライアルは次の順番で挿入してください。

- (1) ティビアルトライアル
- (2) ベアリングトライアル
- (3) フェモラルトライアル

## インプラント挿入

1. 脛骨コンポーネントを挿入します。
2. ベアリングを挿入します。
3. 大腿骨コンポーネント：VG フェモラルインサーターを用いて、設置位置を決定します (Figure 63)。後方顆部を骨にしっかり密接させるために膝関節を深屈曲位 (120°) で挿入します。





Figure 64



Figure 65

## インプラント挿入

次に、膝関節を屈曲位90°にし、VG ROCC ガイドインパクトターを用いて、完全に挿入します (Figure 64)。

M/L位置はインプラントのペグにより決定されま  
す。

膝蓋骨コンポーネントをVG ROCC パテラクラ  
ンプハンドルを用いて挿入します (Figure 65)。

# Vanguard ROCC Rotating Platform Knee System

## サイズ互換表

		Bearing Size								
		55	57.5	60	62.5	65	67.5	70	72.5	75
Baseplate Size	59	•	•							
	63	•	•	•						
	67	•	•	•	•					
	71	•	•	•	•	•	•			
	75	•	•	•	•	•	•	•	•	
	79	•	•	•	•	•	•	•	•	•
	83	•	•	•	•	•	•	•	•	•
	87	•	•	•	•	•	•	•	•	•
	91	•	•	•	•	•	•	•	•	•

注記：ベアリングサイズ = フェモラルサイズ

---

## MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.

販売名：Vanguard RP セメントレスシステム  
医療機器製造販売承認番号：22800BZX00021000



### ジンマー バイオメット

本社 〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目11番1号 住友不動産芝公園タワー15階  
Tel. 03-6402-6600 (代表) Fax. 03-6402-6620  
<https://www.zimmerbiomet.com/ja>

- カスタマーサービス (商品のご注文) ..... Tel. 0463-30-4801  
Fax. 0463-30-4821
- 製品のお問合せ ..... Tel. 03-6402-6602

営業拠点: 札幌、仙台、高崎、千葉、東京、吉祥寺、横浜、金沢、松本、名古屋、大阪、岡山、広島、福岡